

教団新報

定 価 1 部 140 円 (本 体 133 円 千 共 200 円)
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,000 円
紙 代 の み 3,500 円
振 替 00140-9-145275
本 紙 を 購 読 ご 希 望 の 方 は、前 金 を
そ へ て、お 近 く の キ リ ス ト 教 書 店
へ お 申 し 込 み 下 さ い。
教 会 の 購 読 料 は 負 担 金 に 含 み ま す。

発 行 所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東 京 都 新 宿 区 西 早 稲 田 2-3-18
日 本 キ リ ス ト 教 会 館 内 電 話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
発 行 人 内 藤 留 幸
編 集 主 筆 竹 澤 知 代 志
印 刷 所 株 式 会 社 き か ん し



出席者は 73 名、うち新任教師 48 名

2012 年度

新任教師 オリエンテーション

交流を深め、今後の働きの場へ

6 月 18 (土) 日、天 城 山 荘 (伊 豆 市) に て、2012 年 度 新 任 教 師 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン が 開 催 さ れ た。出 席 者 は 73 名 (そ の う ち 新 任 教 師 48 名) で あ っ た。主 題 は「教 団 の 教 師 と し て 宣 教 を 共 に 担 う」で あ っ た。教 師 委 員 会 と し て は、こ の オ リ エ ン テ ー シ ョ ン が、教 団 に お け る 宣 教 の 働 き の 学 び と 共 に、教 団 教 師 と し て、新 し い 出 会 い と 交 わ り の 恵 み (同 期 の 者 が 集 ま る 唯 一 の 機 会) を 味 わ う 機 会 と な る こ と を 願 っ て 準 備 に 当 た っ た。

《日本基督教団の伝道》

1 日 目、小 宮 山 剛 委 員 長 に よ る 開 会 礼 拝 説 教 で は、最 初 の 任 地 の 経 験 か ら、「伝 道 者 は 生 め る キ リ ス ト に 出 会 う 恵 み を、最 も 身 近 に 見 聞 き す る 立 場 に 置 か れ て お り、そ れ が 伝 道 者 と し て 歩 み 続 け さ せ て い た だ く 源 と な っ て い る」こ と が 語 ら れ た。

そ の 後、石 橋 秀 雄 教 団 総 会 議 長 に よ る 講 演「日 本 基 督 教 団 の 伝 道」が な さ れ た。

教 会 が 本 来 持 っ て い る 命 と 力 の 回 復 に つ い て、自 身 の 経 験 を 通 し て、主 イ エ ス と の 出 会 い、キ リ ス ト の 神 性 の 告 白、伝 道 す る 教 会 の 信 仰 告 白、信 仰 告 白 と 教 憲・教 規 に 触 れ て 話 さ れ た。

特 に 贖 罪 信 仰、悔 い 改 め か ら 洗 礼 へ、主 の 教 会 に 加 え ら れ て 聖 餐 に 与 る、こ の 順 序 が 非 常 に 重 要 で あ る こ と が 強 調 さ れ た。

《震災への取り組み》

続 い て 雲 然 俊 美 教 団 総 会 書 記 に よ る 講 演「震 災 の 教 団 の 取 り 組 み に つ い て」が な さ れ た。被 災 教 区 の 教 師 か つ 教 団 書 記 と し て の 教 団 か ら、全 体 教 会 と し て の 教 団 の 取 り 組 み の 経 過 と 共 に、被 災 教 会 の 状 況 と 各 教 区 の 対 応 が 報 告 さ れ た。東 日 本 大 震 災 の 被 害 の 特 徴 と し て、被 害 が 広 範 囲 で あ る こ と、地 震・津 波・原 発 事 故 と 多 重 被 害 で あ る こ と、再 建・復 興 の 取 り 組 み が 長 期 的 と な る こ と を 得 な い こ と が 強 調 さ れ た。



大隅啓三隠退教師による牧会講話、
「協役に徹すべし」

つ い て 述 べ た。

さ ら に 教 団 (宣 教 を 担 う 教 師 を 生 み・育 て る)・教 区 (宣 教 の 場 所 で あ る 教 会 を 生 み・育 て る)・教 会 (神 の 手 足 と し て、教 師 と 共 に 宣 教 を 担 う 信 徒 を 生 み・育 て る) の そ れ ぞ れ の 働 き に つ い て 語 っ た。

屋 食 を 終 え、午 後 に は 教 団 の 取 り 組 み」と し て、教 団 事 務 局 (道 家 紀 一 教 団 幹 事)、出 版 局 (有 澤 禧 年 出 版 局 長)、年 金 局 (隠 退 教 師 を 支 援 す る 運 動 (櫻 井 淳 子 年 金 局 事 務 室 長、宣 教 研 究 所 (宮 本 義 弘 委 員 長、部 落 解 放 セ ン ター (東 谷 誠 委 員 長) の そ れ ぞ れ の 働 き や 取 り 組 み の 紹 介 が な さ れ た。

《教団教師論》

2 日 目 は、岡 本 知 之 教 団 総 会 副 議 長 に よ る 講 演「教 団 教 師 論」が な さ れ た。

教 団 は 合 同 教 会 で あ る ゆ えに、教 師 観、教 会 観 に お い て も 多 様 な 理 解 が 共 存 す る。し か し、教 派 の 相 違 を 越 え て、教 師 の「職 務」に つ い て 共 通 の 理 解 を 持 つ こ と が で き る 可 能 性 が、牧 師 の 職 務 の 伝 統 的 な「三 職 預 言 者 的 職 務、祭 司 的 職 務、牧 者 的 職 務」の 観 点 か ら 提 示 さ れ た。特 に 教 師 は、教 会 員 の 誰 よ り も 早 く、か つ 深 く 御 言 葉 に よ っ て 打 ち 砕

《教会的権能・教務》

最 後 に 内 藤 留 幸 総 幹 事 に よ る 講 演「教 団 の 教 会 的 権 能・教 務・教 会・教 区・教 団 の 関 係」が な さ れ た。教 会 形 成 の 土 台 と し て の 正 典 (聖 書、信 条 (信 仰 告 白)、秩 序 (教 会 法・組 織) に つ い て 紹 介 し た 後、教 憲 が 示 す「教 会 の 形」に つ い て、ま た 公 同 教 会 の 権 能 と し て の 神 の 言 葉 の 説 教 と 聖 礼 典 (洗 礼 と 聖 餐) に

《特別講演》

休 憩 を は き さん で、石 丸 昌 彦 氏 (精 神 科 医 生・放 送 大 学 教 授・柿 本 木 坂 教 会 信 徒) に よ り「メ ン タ ル ヘ ル ス 上 の 問 題 を 抱 え て い る 人 々 と

の 関 係」が 題 し て、特 別 講 演 が な さ れ た。メ ン タ ル ヘ ル ス の 現 状、精 神 疾 患 を 抱 え て い る 人 々 と の 関 係 方 面、精 神 疾 患 と 信 仰 の 関 係 に つ い て 語 っ た。「神 の も の は 神、医 師 の も の は 医 師 に」と い う、医 師、心 理 療 法 家、牧 師 の 役 割 分 担 を 表 す 言 葉 が 印 象 的 で あ っ た。

題、悩 み や 喜 び が 活 発 に 話 し 合 わ れ た。ま た 今 回 は、幼 児 施 設 の あ る 教 会 に 派 遣 さ れ た 教 師 の 分 団 が 持 た れ た こ と は 幸 い で あ っ た。

《牧会講話》

3 日 目 は、大 隅 啓 三 隠 退 教 師 に よ る 牧 会 講 話 が 行 わ れ た。今 年 度 は 新 任 教 師 の 3 分 の 2 が 担 任 牧 師 で あ っ た こ と を 前 提 に し て、12 使 徒 の ア ン デ レ、執 事 フ ィ リ ポ を 通 し て、協 役 に 徹 す る こ と の 大 切 さ が 語 ら れ た。ま た 最 後 ま で 中 部 教 区 で 奉 仕 し た 中 で 示 さ れ た こ と が 語 ら れ、地 方 伝 道 に つ か わ さ れ て い る 新 任 教 師 に と っ て 身 に 迫 る も の が あ り、大 き な 慰 め と 励 ま し を 覺 え る 時 と な っ た。

そ の 後、全 体 の ま と め と し て、参 加 し た 新 任 教 師 全 員 が、一 言 三 語 の 感 想 を 述 べ た。教 団 を 身 近 に 感 じ る よ う に な っ た こ と、約 3 ヶ 月 ぶ り に 同 窓 生 に 会 え た こ と、異 な る 神 学 校 出 身 者、C コー ス 出 身 者 に も 出 会 え た こ と へ の 感 謝 が 述 べ ら れ た。最 後 に 堀 眞 知 子 書 記 に よ る 開 会 礼 拝 を も っ て、す べ て の プ ロ グ ラ ム を 終 え た。

5 回 の 食 事 の 席 は、毎 回 く し に よ っ て 決 め ら れ、参 加 者 同 士 が、和 や か に 語 り 合 い、お 互 い を 知 り 合 い、交 流 を 深 め 合 う こ と が で き た。こ れ ら の 出 会 い が、今 後 の 働 き の 場 に お い て 豊 か に 生 か さ れ る こ と を 心 か ら 祈 り つ つ、恵 ま れ た 新 任 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン を 終 え る こ と が で き、感 謝 で あ っ た。(堀 眞 知 子 報)

荒野の声

▼牧師がチカき回したり。そこには薄切りのパンがある。晩餐会を開いた。最初の料理が並りました。最初が子牛、次が羊、そして子羊。聖書にこじつけているのではありません。牧師が、にこにこ青く。▼最後の皿。運ばれたのは、デザートのアイスクリュー。アイスを口に入れても、肉の味はない。聖餐のパンのことがあるから、みんな舌ではなく、頭で考へる。▼気が短い役員が怒り出した。こんな奇妙な晩餐はあったもんじゃありません。こんな人を見たような。そして、はっと気がついた時は、もう遅かったです。これはうずらです。あれはイタリアの旅行の時だったかな。▼出席者は納得はいかないものの、チャリティーのものをひっくり返した。付け合わせの野菜を支払った。(出典不明)

共に祈り、支えよう！

「東日本大震災救援募金のお願い」

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

記
目 標 額 10 億 円 (国 内 の み)
期 間 2011.7.1 ~ 2015.3.31
振 替 番 号 00110 - 6 - 639331
加 入 者 名 日 本 基 督 教 団 東 日 本 大 震 災 救 援 募 金
〒 169-0051 東 京 都 新 宿 区 西 早 稲 田 2-3-18-31
2012 年 8 月
教 団 救 援 対 策 本 部 長 石 橋 秀 雄

お知らせ

教 団 年 金 局、事 務 局 は 8 月 1・2・3 日、出 版 局 は 2・3 日 が 夏 期 休 暇 と な り ま す。
教 団 総 幹 事 内 藤 留 幸

異例の臨時委員会、緊急課題 に対応

第 5 回予算決算委員会

6月5～6日に、今総会期の第5回予算決算委員会が開催された。

計良祐時財務幹事より2011年度経常会計第三次補正予算及び決算に関して報告を受け、確認した。

また、東日本大震災関係の会計報告等を受け、現況と今後の課題について検討した。しかし、様々な検討課題があり、臨時の委員会を開催して集中的に取り扱うこととした。

併せて、臨時委員会において、今後も長く課題となるであろう教団全体の支出の減額の可能性も検討する。

財政支出の圧縮は、教区負担金の減額のためにも必要な課題であるが、すぐに

支出を減らす手立ては見当たらないという所が現実である。臨時に委員会を開催することは異例なことであるが、現在の教団の抱えている財政的課題が大きいというところとして御理解いただきたい。

2012年度の第一次補正予算案が提示され検討し、承認した。一旦、減額されたNCC分担金が、前年度と同額となり、結果として大きな予算補正が必要となった旨、財務幹事より経過報告を受けた。

教団出版局の決算報告を受け、教団からの担保について加筆して貰うことを確認した。

教団部落解放センター決算報告に関して内部留保額



教団が抱えている財政的課題は大きく

件もあり、何より、被災された3教区の報告を聞き、今後の再建のために、心を合わせ、祈りたい。時間が

足りないと思われるが、建設的な意見交換の時となるよう準備を進めている。

(山上清之報)

健康診断（人間ドック）に多くの希望者

第7回教師委員会

第37総会期第7回教師委員会が、天城山荘にて6月18～20日に、新任教師オリエンテーションをはじめ、70名くらいの希望者があり、行われた。

第6回委員会以降の委員長及び事務局報告（2011年度教師委員会会計報告・教師継続教育研修費援助報告も含めて）が資料に基づいて、小宮山剛委員長と道家紀一担当幹事より報告され、質疑応答がなされた。

特に当委員会より提案した「被災教会・伝道所担任教師健診（人間ドック）」（対象者は教師と配偶者）につ

いて、奥羽・東北・関東の教区議長及び教師宛に文書を発送した結果として、70名、教団四役・神学校教師・講師・教師委員・担当幹事・職員：25名（合計73名）、プログラム各担当の確認をした。また2日目午後の自由時間の委員の担当（温泉、滝散策）、分団の持ち方等についても確認した。

20日の委員会では、主として新任教師オリエンテーションの反省と今後の課題について話し合われた。出席者の協力も得られ、季節外れの台風の影響で散策ができなかったことを除けば

プログラムは全体として順調に進み、講演等も新任教師オリエンテーションにふさわしいものであった。今回、幼児施設のある教会に派遣された教師の分団が持てたこと、良き学びと交わりの時が持てたことを感謝している。来年度の検討課題として、それぞれ違わされている状況で分団分けをすることが提案された。

2013年度新任教師オリエンテーションは、6月17～19日、天城山荘で開催する予定である。

(堀真知子報)



林原泰樹宣教師（後列右）に退任慰労金

宣教師支援委員会などの傘下の委員会報告の後、今回は、特に、ケルン・ボン日本語教会の奉仕を終えて帰国された林原泰樹宣教師の帰国報告を昼食を共にしながら聞く機会を持った。

同宣教師は在ドイツ期間中に長女玲羅さんを白血病で

亡くし、深い痛手を負った。ラインラント州教会との関係や現地日本人教会の課題などを聞き、その労をねぎらった。

主な協議事項として、①小海光宣教師は米国オーシャンサイド・ファースト合同メソジスト教会を辞任し、UMC派遣宣教師として、南青山にあるウエスレ

②カナダ、バンクーバー日系人合同教会宣教師として坐間豊宣教師を派遣すること

第37総会期の第7回信仰職制委員会が6月25～26日に、委員7名全員の出席のもと教団会議室で行われ、以下の二つの諮問に答申が出された。

他教団で按手を受領している日本基督教団の信徒によつて執行されたものである場合、その洗礼は、有効であるか無効であるか。

答申

その洗礼は有効です。《教憲教規の解釈に関する答申集》2010年12月・77参照

ただし、教会役員会が「他教団で按手を受領している日本基督教団の信徒によつて執行」される洗礼を承認したことは、教憲（第8条）・教規（第104条②）違反ですから、教会役員会はその議決が誤りであったことを認め、その上で、執行された洗礼それ自体は有効

であり、その洗礼を受けられた者たちはその教会の信徒であることを確認すべきです。また今後このようなことが繰り返されることのないよう、教区は教憲教規に従った指導をすべきです。

………

◎関東教区からの諮問

「信徒伝道者」の承認について、教区はどのような基準でこれを承認すべきでしょうか。

答申

諮問にある「信徒伝道者」は、教憲・教規上認められているものではない。

「信徒のまま教師に準ずる働きをしている者」とは、「教師退職年金等規則の特例に関する規則」第1条に規定されているものですか、これについては年金局にお尋ねください。

(小堀康彦報)

深い痛手を負いながらも主の御用に

第4回世界宣教委員会

第37総会期第4回世界宣教委員会が6月25日、教団会議室で開かれた。

教団より世界各地に派遣

された宣教師の消息や、ケルン・ボン日本語教会の齋藤篤宣教師の就任式、また、ロンドン、ウイーンの日本

語礼拝からの宣教師派遣要請があり、調査のため加藤誠世界宣教師担当幹事が現地を訪ねたこと、オーストラリア合同教会、ニュージーランド長老教会などからも新しく総会参加の要請があり、世界宣教の活動の新しい広がりを感じさせられた。

③マレーシア、クアラリンブル日本語キリスト者集会、牧会ボランティアとして、4月から相浦和生牧師が担当、8月より松谷好明牧師が9月まで担当することになっている。それ以降

の扱いについて常任委員会に任。

④米国、ウエスレー合同メソジスト教会、西之園路子宣教師より任期継続願いが出ており、これを承認。

⑤延期されている三国間協議会（スイス、韓国、日本）

を2013年に日本で開くことになっているが、東日本震災2周年を機に、この協議会を三国だけでなく、台湾基督教長老会や関係諸外国の教会にも呼び掛けて、2013年3月12日（火）～15日（金）に仙台

で行うことの提案があり、これを承認。

⑥改訂・宣教基礎理論に関する宣教研究所委員会より神代真砂実、長谷川洋介各委員より説明があり意見の交換があった。

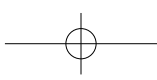
(秋山徹報)

洗礼式が有効か無効かを答申

第7回信仰職制委員会



常に難しい判断、対応が求められる



『一つと成らんために』をテーマに

第37総会期教区伝道委員長会議



全国 15 教区の伝道委員長らが集い

第37総会期教区伝道委員長会議が「一つと成らんために」をテーマに、6月25日～26日、西千葉教会にて、教団伝道委員会主催で行われた。京都教区と沖縄教区を除く15教区より出席があった。

開会礼拝では、米倉美佐男伝道委員長により「一つと成らんために」と題して説教がなされた。教団成立から10年後に出版された、『一つと成らんために』が紹介され、当時の教会の指導者たちが教派の違いを超えて

一つに成らんとした様子が偲ばれる、現在の教団が一つと成って伝道していくための何をしなければいいのか、祈り求めたいと語られた。

開会礼拝後、発題がなされた。まず伝道方策検討委員会の鈴木功男委員長より、教団教区の教勢分析が報告された。

続いて北紀吉伝道方策検討委員長により「伝道方策検討委員会の報告がなされた。特に伝道推進室設置の必要性について説明がなされた。

最後に、教区活動連帯金検討委員会の伊藤瑞男委員長より、教区活動連帯金を廃止し、教区・教会の伝道を推進するため「伝道資金を設ける提案について説明がなされた。

懇談では「伝道推進室と伝道資金は別個の提案であることの確認、教区活動連帯金が信頼関係を失い行き詰まった経緯、拠出教区の伝道資金申請の可否などについて意見が出された。

1日目夜は、各教区からの報告がなされた。教区に「伝道委員会の位置づけが違い、働きも様々であることが話題になった。

2日目は小島誠志牧師

(久万教会により「あなたがたが食物を与えない」と題する講演がなされた。主が2匹の魚と5つのパンを用いて御業をなされた出来事に重ねつつ、全体協議では、主に用いていただけの教区教団の2匹の魚と5つのパンは何かについて意見を出し合った。

「最後には、信仰告白と聖礼典の一致がなければ、一つとなつて伝道に励むための信頼関係は成り立たない」との意見が出された。

開会礼拝では、北川善也伝道委員長により「今は憐れみを受けている」と題して説教がなされ、祈りと賛美をもって会を閉じた。

(小林克哉報)

消息

松原 茂氏(隠退教師)



12年5月16日逝去、82歳。上海に生まれる。'56年東京神学大学大学院を修了、同年瀬戸永泉教会に赴任、二宮教会、聖光学院を経て、福岡女学院に'91年まで勤め、'07年隠退した。

遺族は、娘・秋本基子さん。

築山泰三氏(芦屋西教会主



12年4月28日逝去、83歳。大阪府に生まれる。'94年大阪キリスト教短期大学専攻科を卒業、同年いずみ教会に赴任、千里聖愛教会、大阪のぞみ教会を経て、河内長野みきわ教会を'05年まで牧会し、'10年隠退した。

遺族は、妻・松原幸子さん。

久保田純一氏(隠退教師)



12年5月25日逝去、75歳。大阪府に生まれる。'67年関西学院大学大学院を修了、'64年蒲生教会に赴任、天王寺(現、喜連自由)教会を経て、芦屋西教会を牧会した。

遺族は、妻・築山洋子さん。

事務局報

補教師登録

荻野英夫 秦 貴詞、

菊田行佳

(2012.5.1受允)

今井このみ、今井孝司、

上山耕平、江口裕子、

加藤太朗、川江友二、

山下壮起、飯田瑞穂、

栗山尚典、吉新 緑

(2012.5.3受允)

永口裕子、大坪哲也、

熊谷沙蘭、与田正和

(2012.5.4受允)

後藤 慧、餅原研一

(2012.5.7受允)

牛山 敬

(2012.5.22受允)

浦上 光、小森康三、

杉田俊介、松本あずさ

(2012.5.21受允)

山畑 謙、池田慎平、

小林隆史、田名尚文

(2012.5.23受允)

正教師登録

中川好幸

(2012.5.4受按)

上原芳子、温井節子、

柳元宏史

(2012.5.7受按)

兼松千佳子、松田光代、

涌井 徹

(2012.5.21受按)

野村史子

(2012.5.23受按)

教師異動

香里ヶ丘 辞(主)清水朝子

就(主)渡辺圭一郎

堺川尻 辞(主)正田 篤

就(主)塚本一正

茨木東 辞(主)下村邦夫

就(主)正田 篤

高槻南平台 辞(主)西田 晃

就(主)齋藤 開

秋南 辞(主)篠崎 勲

就(主)篠崎 勲

岩本 就(主)篠崎 勲

就(主)篠崎 勲

横浜上原 辞(主)古旗 誠

就(主)荒瀬正彦

目白 辞(主)古旗 誠

就(主)古旗 誠

聖ヶ丘 辞(主)外崎 孝

就(主)國安敏二

幕張 辞(主)伊藤 智

就(主)伊藤 智

西千葉 辞(主)笠間 良

就(主)笠間 良

市川 辞(主)松本 博

就(主)笠間 良

大月新生 辞(主)井本克二

就(主)井本克二

勝沼 辞(主)船戸良隆

就(主)船戸良隆

下関丸山 辞(主)友川 栄

就(主)友川 栄

就(兼主)友川 栄 大住世光就(兼主)岸本兵一

本郷 辞(主)廣田 登 泉 就(兼主)岸本兵一

立川 辞(主)宮崎 新 岡山 辞(主)床次隆志

就(主)高田和彦 神戸雲内 辞(主)竹内款一

就(主)梁 在哲 就(主)床次隆志

公告

第38回 日本基督教団総会開催について

第38回日本基督教団総会を左のとおり開催いたしますので、ここに公告します。

会 期 3日間 2012年10月23日(火)
午後1時30分～25日(木) 午後3時

会 場 ホテルメトロポリタン
東京都豊島区池袋二丁目6番1号

2012年8月1日

日本基督教団総会議長 石橋秀雄

傍聴希望者は左の要領に従って 手続きをしてください。

1. 傍聴資格

本教団の教師および現住陪餐会員たる信徒に限ります。なお、信徒の方は所属教会牧師の推薦状が必要です。

2. 参加費 5千円(会場費2千円、資料代3千円)

3. 締 切 10月15日(月)

4. 申込先 日本基督教団事務局総務部
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田二丁目3番18号

お申し込みいただいた後に必要手続についてのお知らせを郵送します。

なお、当日申込みは認めませんので、予めお申し込みください。

◎建議、請願の締切は10月2日(火)になります。

アルバイト急募

《編集補助1名 未経験者可》

＊3ヶ月以上勤務可能な方

◎時 間 週3日、9時30分から17時

◎勤務地 東京都新宿区西早稲田

◎給 与 規定によって支給 委細面談
交通費支給

◎応募締切 2012年8月6日必着

◎応募方法 下記住所に履歴書(写真付)を郵送下さい。書類選考の上、面接のご連絡を差し上げます。＊応募書類は返却いたしません。

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18

日本キリスト教会館 4階

Tel 03-3204-0421 総務課

2012 年 平和メッセージ

2012 年平和聖日

日本基督教団 総会議長 石橋秀雄
在日大韓基督教会総会長 金 武 士

「地とそこに満ちるもの、世界とそこに住むものは、主のもの。」
(詩編 24 編 1 節)

東日本大震災の発生から 1 年 4 か月が経過しました。2012 年 3 月 11 日現在で、死者 15,854 名、行方不明者 3,155 名という厳しい現実を前に、主なる神の憐れみを願い求めます。

被災し、今なお大変な困難の中で生活しておられる方たち、福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染により、将来の不安を抱える中で、その生活の場から避難することを余儀なくされている方たちを覚え、主の支えと導きを心よりお祈りいたします。

日本基督教団並びに在日大韓基督教会では、震災後直ちに被災者・被災地の救援と支援活動を開始し、今日に至るまでその活動を展開しておりますが、このことのために両教会の諸教会のみならず、海外の多くの教会において祈りがなされ、支援が継続されておりますことを感謝いたします。

さらに、原子力発電所事故による放射能の拡散を防ぎ、放射能の被曝の危険の中で懸命に働いておられる方々の努力と痛みを覚えます。

さて、この度の震災による被害の中で、私たちがとりわけ関心を持ち続けて行かなければならないのは放射能汚染の問題であり、その原因となった原子力による発電の問題性です。

すでに昨年の「平和聖日」に両教会合同で「平和メッセージ」を発

表しました(『教団新報』第 4728 号、『福音新聞』第 699 号)。その中で原子力発電の問題性を指摘し、「全ての原発の稼働を停止し、廃炉を前提とした処置が取られること」を求めました。

福島第一原子力発電所事故は、原子力発電というものが、神に祝福された世界、神の創造の秩序を破壊し、命あるものの関係を断ち切る人類滅亡の危機の始まりとなりうることを警告しています。日本は被爆国です。原爆の恐怖は投下された時の凄まじい破壊の恐怖にとどまらず、その時助かった方々にも一生放射能の恐怖に怯える生活をもたらしました。わたしたちは国家の原子力政策の被害者でもあります。福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の被害により、軍事のみならず民事においても被害者となりました。しかし、同時に今や日本は原発事故によって大量の放射能を大気に、海に放出し、世界に対する加害者になってしまいました。

新たな地震によって、福島第一原発 4 号機の 1535 本の核燃料棒に対する冷却手段を失えば、再臨界を招き、大気中に果てしなく放射能を放出し、かつて人類が経験することのなかった世界の滅亡の始まりとなることが指摘されております。

被曝に由来する癌が発見されるまで 5 年、10 年と長い年月がかかると共に、放射能は遺伝子を破壊し、その影響は次の世代にまで及ぶと言われています。

人間のつくった原子力発電のシステムは、神の創造の秩序の破壊をもたらすものと言わざるを得ません。人間の命よりも経済が優先される社会の中で生きるわたしたちの悔い改めが求められています。

震災から 1 年 4 か月が経過し、原子力発電所の事故による影響が極めて広範囲に及んでおり、またその内容も深刻さを増している現在の状況の中で、すべての原子力発電所の稼働を停止し、廃炉を前提とした処置が取られることを求めつつ、両教会に属するすべての教会において祈りを合わせていただきたいと願います。

資産運用益計画額達成

第 4 回年金局理事会



第 37 総会期第 4 回年金局理事会がさる 6 月 21、22 日教団会議室で開催され、教区代表理事、東京教区支区代表を含め 26 名(沖縄教区は欠員)が出席した。

「2011 年度年金局事業報告ならびに決算書」、「2013 年度年金局財務計画」および「謝恩金規則の一部変更」は審議され、承認された。この 3 件は第 6 回常議員会に提議される。

2011 年度は謝恩金の遺族扶助料を 4 人に合計 325 万円を、退職年金・遺族年金を 776 名の方に合計 4 億 5,750 万円を遅滞なく給付することができた。謝恩日献金は 1 億 1 千万円の目標額に対し達成率 41%の 4,519 万円に留まり、前年度よりは 147 万円増え、980 教会から献金があった。

また一定額を教区予算から拠出すること、決議し、実施したところは 7 教区あった。教区代表理事の報告から謝恩日献金に関して理解が深まり、広がった様子が見受けられた。今後も、全教会・教区で教団年金制度を育て、強めていくよう努力をつづけることを確認した。東日本大震災の被災教会・教区は「厳しい状況にあるが、その中で出来る限り教師の年金を支えよう」との祈りから、献金に努めている様子を見て、励まされている。

(櫻井淳子報)



磯部 重夫さん

1912 年の生まれ、3 月で 100 歳になった。洗礼を受けたのは学生の時だが、信仰によって生かされるということ、真に知ったのは、南方の戦線で多くの友を失った時。乗っていた船が撃沈され、洋上をさまよった体験を持つ。その時、II コリント 4 章 8 節が、心に語りかけて来た。勿論、文語訳だ。『為らん方つくれども希望を失わず』。



松江北堀教会員。今年 3 月、100 歳に。信仰も音楽も現役。

を守る時が与えられた。高井戸教会では、教会学校長、聖歌隊の隊長を務めた。

1988 年、76 才の時に、自宅隣地で相次いで建築工事が行われたのを契機に仕事を退き、夫人の郷里であり、かねて愛着を抱いていた松江に移り住み 24 年が経った。地元合唱団に入り、しばしば開催される県や市のホールで音楽を鑑賞し、海山の幸を堪能、何より豊かな人情に触れるなど、恵まれた島根の自然を満喫する。島根の方が音楽環境が良いと言う。

米国に暮らす孫娘とメールするために、80 才を過ぎてから、パソコンを覚えた。

勿論、徒歩 3 分の松江北堀教会での信仰生活も。CS の子どもたちに、趣味の紙飛行機やクリスマスカード作りなどの工作を伝授するなど友だちのつきあい、信仰生活も充実した。

「窮屈な都会に閉じ籠もっていないで、田舎にいらっしやい。ここには本当に豊かな寛いだ人間らしい生活がありますよ」と勧める『為らん方つくれども希望を失わず』の御言葉に養われた磯部さんには、日本中、世界中、何処もマイスイートホームだ。

定年後の田舎暮らしを推奨するテレビ番組が多い。教会でこそ、実現できるのではないだろうか。兄弟姉妹が待っている。

ここに教団がある

6 月に、在日大韓基督教会と日本基督教団との宣教協力委員会(4~5 日。湯河原にて)、第 12 回部落解放全国会議(11~13 日。大阪にて)、新任教師オリエンテーション(18~20 日。天城山荘にて)が開催された。新報紙上ではスペースの都合があり、その内容や全体の様子を十分に伝えることは難しいと思うが、それぞれに充実した学びの時をもつと共に、実際の活動や取り組みが紹介され、実に活発な話し合いがもたれたことが印象的であった。在日大韓基督教会との宣教協力委員会では、近藤

勝彦東京神学大学長による両教会(教団)の宣教協力の共通基盤と目的についての講演と、浪速教会の金鐘賢牧師のホームレスと共に歩む宣教活動の報告をじっくりと聞き、大きな励ましを与えられた。部落解放全国会議は部分参加ではあったが、講演による学びがあり、日頃各地域において部落差別撤廃と反差別の連帯の働きを担っている方たちの報告があり、再会や新

しい出会いがありという、実に熱気あふれる集まりであった。新任教師オリエンテーションでは、新任教師からそれぞれの任地における奮闘の様子を聞くことができて有益であったし、集った教師たちが、遣わされた教会の形成に励むことにおいて、全体教会としての教団の形成を担っていることを思い、本当に頼もしく思った。内容や参加者も全く異なる集会であったが、その関わりと取組みの幅の広さに、「ここに教団がある」との思いを強くした次第である。

(教団総会書記 雲然俊美)